

答え合わせ・解説

問1	答え 1 空海	平安時代初期には、奈良時代の仏教が政治に介入しすぎたことへの反省から、山の中に寺院を建てて修行に励む新しい仏教が求められました。空海は唐で最新の密教を学び、帰国後に和歌山県の高野山を拠点として真言宗を開きました。同時期に比叡山で天台宗を開いた最澄とともに、平安文化に大きな影響を与えました。
問2	答え 1 王朝名：唐、修行の名称：念仏	平安時代初期、最澄（天台宗）や空海（真言宗）は遣唐使とともに唐へ渡り、新しい仏教を日本に伝えました。平安時代中期以降、社会の混乱や末法思想の広がりを背景に、阿弥陀仏を信じて「南無阿弥陀仏」と唱える念仏により、死後に極楽浄土へ生まれ変わることを願う浄土信仰が盛んになりました。題目を唱えるのは鎌倉時代に始まる日蓮宗の修行であり、宋は平安時代後半から鎌倉時代にかけて交流が盛んになった中国の王朝です。
問3	答え 2 貿易による莫大な利益と宋銭などの輸入品を、一門の権力を維持するための経済的基盤にするため。	平清盛は、武力だけでなく経済力によって政権を安定させようと考えました。大輪田泊を整備して日宋貿易を本格化させ、宋から輸入した宋銭を国内で流通させることで、貨幣経済の先駆けとなりました。この経済力が、平氏の「平氏にあらざれば人にあらざ」と言われるほどの全盛期を支えました。
問4	答え 1 平等院鳳凰堂	摂関政治の全盛期を築いた藤原道長の息子である頼通は、父から譲り受けた宇治の別荘を寺院に改めました。これが平等院鳳凰堂です。当時は末法思想の影響で、死後に阿弥陀仏によって極楽浄土へ導かれることを願う浄土信仰（浄土教）が貴族の間で流行しており、この建物はその極楽浄土の姿を地上に再現しようとして造られました。
問5	答え 1 遣唐使の廃止によって大陸との公的な交流が途絶え、それまでに取り入れた大陸文化を日本の風土に合わせて消化・吸収する動きが強まったため。	遣唐使の廃止により、中国の文化をそのまま模倣するのではなく、日本の気候や生活習慣、日本人の感性に適した形へと作り変える傾向が強まりました。これが、大和絵や寝殿造、かな文学といった日本独自の文化形成につながりました。
問6	答え 1 浄土信仰	平安時代中期から、社会の混乱を背景に「浄土信仰」が盛んになりました。平等院鳳凰堂はその信仰を視覚的に表現した最高傑作とされ、内部には美しい阿弥陀如来像が安置されています。この文化は国風文化の一つに分類されます。
問7	答え 1 国風文化 — 浄土信仰	遣唐使の廃止などをきっかけに、日本の風土や生活に合わせた「国風文化」が発達しました。平等院鳳凰堂はこの国風文化の代表的な建築物であり、その造営には、阿弥陀如来を信仰して極楽往生を願う浄土信仰が強く影響しています。天平文化は奈良時代、弘仁・貞観文化は平安時代初期の文化です。
問8	答え 1 国風文化	894年に菅原道真の建議によって遣唐使が廃止されたことで、中国との直接的な交流が減少しました。その結果、それまでの大陸文化の影響を残しながらも、日本の貴族の生活や感性に適した独自の文化が発展しました。これを国風文化と呼びます。
問9	答え 1 自身の娘を天皇の後とし、その子供を次の天皇に即位させることで、天皇の母方の親戚として政治を行う摂関政治。	藤原氏は平安時代、天皇との婚姻関係を深めることで権力を維持しました。自分の娘が産んだ子（孫）を天皇に立て、自分は天皇の母方の祖父という立場を利用して、幼い時には摂政、成人してからは関白として政治を主導しました。この仕組みを「外戚（がいせき）関係」と呼びます。